

## 本 会 記 事

### 2022年度第2回(一社)日本農学会運営委員会議事録

日 時：2022年9月7日(水)15時～15時35分

場 所：ZOOM会議

出席者：

大杉 立会長，大政政謙次副会長，渡部 終副会長，與語靖洋監事，松元 哲(園芸)，竹原周平(樹木医(代))，中村英光(植調/農薬)，高橋輝昌(森立)，片岡美喜(地域経(代))，岩田洋佳(育種)，伏信進矢(応糖)，矢沢勇樹(海水)，木村健一郎(国地開)，松村一善(砂丘)，青木直大(作物)，鈴木雅京(蚕糸)，春原由香里(雑草)，中川貴之(獣医)，宮田伸一(植病)，玉井幸治(森林)，田中誠也(水産(代))，安永円理子(生環)，齋藤勝晴(草地)，山本清龍(造園)，山内啓太郎(畜産)，渡邊 学(動遺育)，大塚重人(土肥)，宍戸雅宏(土微)，上吉原裕亮(熱農)，濱崎孝弘(気象)，松本浩一(経営)，河野恵伸(農経)，安達俊輔(農作)，田中 智(繁殖)，中谷朋昭(フード)，久保寺秀夫(ペドロ)，恒次祐子(木材/木加工(代)/木質(代))，石神靖弘(農情)，吉田修一郎(農村工)，服部俊宏(農計(代))，杉野弘明(復興)，田中 亘(林経)，黒住圭子(事務担当)

欠席者：

佐藤秀一監事，矢部和弘(シス農)，堀田和彦(実農)，龍原 哲(森計)，土肥哲也(生態工)，大井田寛(応動昆)，太田能之(家禽)，飯島健太郎(芝草)，塩出大輔(水工)，松田 幹(農化)，吉田 誠(木材保)，林 薫平(有機)，五月女格(食料工)，荒木徹也(農施)

議長：大杉会長

進行：岩田庶務担当常任委員

議事：

1. 2022年度第1回日本農学会運営委員会議事録の承認について
2. 2022年度(第93回)日本農学大会の報告
3. 2022年度日本農学会シンポジウムの準備状況について
4. 2023年度日本農学賞受賞候補者の推薦および(一社)日本農学会総会について
5. 2023年シンポジウムテーマについて
6. 2022年度常任委員担当学会について
7. その他

学術の中長期研究戦略の公募について

議事：

議事1. 2022年度第1回日本農学会運営委員会議事録の承

認について

岩田庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事2. 2022年度(第93回)日本農学大会の報告

岩田庶務担当常任委員より資料に基づき、2022年度(第93回)日本農学大会の報告があった。

今回は会場参加，オンラインで配信のハイブリッドで開催。会場参加87名(関係者含む)，オンライン登録者：227名，視聴者：275名，同時視聴者：218名の参加があったことが報告がされた。

議事3. 2022年度日本農学会シンポジウムの準備状況について

玉井企画担当常任委員から資料に基づき説明があった。9月7日現在申込者数227数名，会場参加34名，オンライン参加193名となっている。また，関係者，各学協会内での周知して下さるようお願いがあった。

議事4. 2023年度日本農学賞受賞候補者の推薦依頼・推薦書

岩田庶務担当常任委員より資料に基づき，例年通り日本農学賞の推薦依頼を9月12日に添付で各学協会宛に送付。推薦締切が11月30日(水)となる。また総会・選考会は2023年2月11日(土)に開催することが報告された。開催方法についてはコロナ感染症の状況によって決定していくことが説明された。

また，読売農学賞の副賞は今回最後となる事が報告された。

議事5. 2023年シンポジウム開催日時：テーマ

岩田庶務担当常任委員より，2023年10月7日(土)開催で準備を進める予定であることが報告され，資料に基づき6学協会からシンポジウムテーマの提出があり内容について簡単な説明がされた。理事会において，学協会から提案されテーマを中から日本土壌肥料学会から提出された「大変動時代の農学 Part 2」を基本に，少し先を見据え，異分野融合なども入れた内容を考え，学協会には改めて話題提供をお願いすることになる旨説明があった。

議事6. 常任委員割り当て表

岩田庶務担当常任委員より資料に基づき，現在の常任委員担当学協会が確認された。

来年度は日本造園学会，日本畜産学会，日本農芸化学会の担当になる旨説明があった。

議事7. その他

学術の中長期研究戦略の公募について

岩田庶務担当常任委員より，6月30日付けで学術会議からだされた学術の中長期研究戦略の公募内容について説

明があった。今後20~30年頃までの先を見通した「グランドビジョン」となるので、農学関係として積極的に提案してほしい旨お願いがあった。

日本畜産学会の山内運営委員から、中長期研究戦略の公募について日本農学会として主体的に何か提案する計画があるのかとの質問があった。岩田庶務担当常任委員より、

現状では、時間的な制約あり、日本農学会としての提案、取りまとめはないが、マスタープランは3年に1度公募されているので、今後日本農学会としての取り組みを検討していきたいとの報告があった。また、運営委員会も充実させて、意見交換が出来る場になるように努力していく旨説明があった。